

2022年度入試

入学試験問題集

【東京成徳大学 応用心理学部 臨床心理学科】



東京成徳大学 東京成徳短期大学

目 次

総合型選抜 9月入試 小論文	1
総合型選抜 10月入試 小論文	2
総合型選抜 12月入試 小論文	3
学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試） 小論文	5
一般選抜 D日程入試 総合型問題（学部学科別）	7
出題意図・解答例	9

「一般選抜 A 日程・B 日程・C 日程」の問題は、
「2022 年度入試問題集 一般選抜 A 日程・
B 日程・C 日程（大学・短期大学共通）」に
掲載しています。

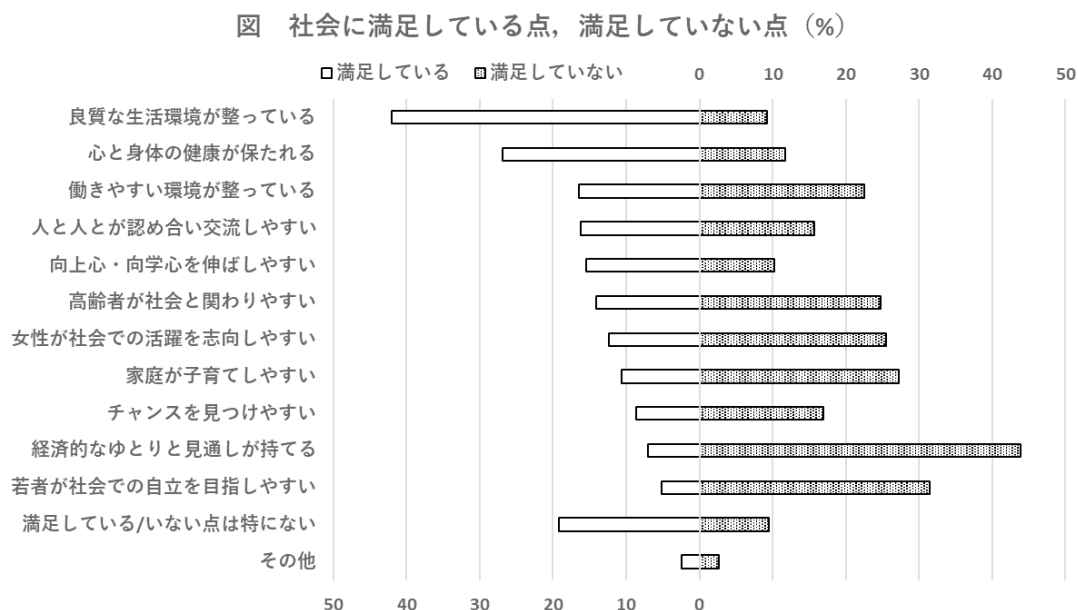
●総合型選抜 9月入試

【小論文】（試験時間：60分）

次の図は、満18歳以上の男女を対象に、現在の社会において満足している点、満足していない点のそれぞれについて、14の選択肢の中から当てはまるものを全て選べた結果をまとめたものである。

- (1) 図から読み取れることを記述しなさい。
- (2) 「若者が社会での自立を目指しやすい」という項目に対する回答結果について、若者が社会での自立を目指しにくいと感じる要因として、どのようなものが考えられるか。社会の側の要因、若者側の要因それぞれについて、あなたの考えを記述しなさい。

解答の際は、(1)・(2)を合わせて800字以内にすること。また、それぞれの開始部分に「(1)」、「(2)」を明記し、間に改行を挟むこと。



注：「その他」は「その他」「わからない」の2つの選択肢の回答割合をまとめて示している。

※出典：内閣府（2020）「社会意識に関する世論調査（令和2年1月調査）」

内閣府ホームページ <https://survey.gov-online.go.jp/r01/r01-shakai/index.html>

●総合型選抜 10月入試

【小論文】（試験時間：60分）

次の文章は、対面のコミュニケーションが制限されている昨今の状況を踏まえて、言葉を用いたコミュニケーションについて書かれたものの一部である。文章を読んで下記の問1～問3に答えなさい。

では、言葉はいったい何のために作られたのか。人間を含むサルや類人猿といった霊長類は、視覚優位の世界認識を持っている。視覚は五感のうちでまず物事を理解するのに用いられ、他者とたやすく共有できるからだ。次に聴覚、嗅覚（きゅうかく）、味覚、触覚の順に共有度が下がる。変な音が聞こえたり匂いがしたりすると、見て確かめたくなるのはその表れだ。それは霊長類の祖先が樹上で暮らし、夜から昼の世界に進出した時に、鳥と同じような立体視と色彩を感知する能力を身につけたことによる。言葉は五感を音によって表現する手段で、まずは視覚に対応するようになっている。形や色の表現が多彩なのも視覚に基づくからだ。

しかし、面白いことに信頼を高める五感は逆で、触覚や味覚、嗅覚といった他者と共有しにくい感覚が重要になる。それは他者と直接触れ合い、近接して身体を共鳴させたときに味わう感覚で、身体がつながったような気持ちになるからだろうと思う。逆説的に言えば、他者と共有しにくいからこそ、相手の気持ちを感じようという心の動きが生まれるのではないだろうか。

言葉もその感覚⁽¹⁾を伝える。ざらざら、すべすべ、べったり、あまったるい、つんとくる、などの表現も多彩だ。しかし、これらの言葉は実際に体験してみないと腑に落ちないことが多いし、「卵の腐ったような臭い」などと実際の現象を例にとることも多くなる。それは、他者も同じように感じているかどうかを確かめることが難しいからである。でも、親密な人間関係を保つためには、視覚や聴覚以上にこれら三つの感覚を共有することが重要になる。共に暮らす上で、身体と心を共鳴させることが不可欠になるからだ。

出典：山極寿一 科学季評 2021年8月6日 朝日新聞

問1 下線部（1）の「その感覚」とは、具体的に何を指していますか。

問2 言葉は何のために作られたのかについて、文章の中で著者は言葉のどんな役割を述べていますか。

問3 「言葉は何のために作られたのか？」に対するあなたの考えを述べてください。

以上の3つの問いについての解答を、800字以内でまとめなさい。解答用紙に解答する際は、それぞれの開始部分に「問1」、「問2」、「問3」を明記すること（また、それぞれの解答間には改行を入れること）。

●総合型選抜 12 月入試

【小論文】（試験時間：60 分）

【問題】 日本の子どもは幸せでしょうか？

ユニセフ（2020）は、先進経済国（38 か国）における子どもの幸福度について、分析を行いました。分析では、子どもの幸福度を「精神的幸福度」、「身体的健康」、「スキル」の3つの側面から捉えています。分析の結果、日本は子どもの幸福度の総合順位で 20 位でした。分野別の順位を表 1 に示しています。

表1：子どもの幸福度の調査結果：日本の分野別順位

分野	指標	順位
精神的幸福度	生活満足度が高い15歳の割合	37位
	15～19歳の自殺率	
身体的健康	5～14歳の死亡率	1位
	5～19歳の過体重／肥満の割合	
スキル	数学・読解力で基礎的習熟度に達している15歳の割合	27位
	社会的スキルを身につけている15歳の割合	

出典：ユニセフ「レポートカード16」

そして、「スキル」に関する調査結果の詳細を、別紙にある2つの図に示しています（日本は斜線の棒）。

- (1) 別紙の図表（図1・図2）から、読み取れる情報を述べてください。
- (2) 日本の子どものために、あなたが重要と考える課題とその解決策について論じてください。

(1) と (2) を合わせて合計 800 字以内になる（解答用紙に収まる）ように記入してください。また、解答用紙上でそれぞれの問いに対して記述を開始する際、開始場所に「(1)」や「(2)」を明記してください。

図 1 読解力および数学的リテラシーが基礎的熟達レベルに達している 15 歳の子どもの割合（グラフ左にある英語の和訳）

別紙

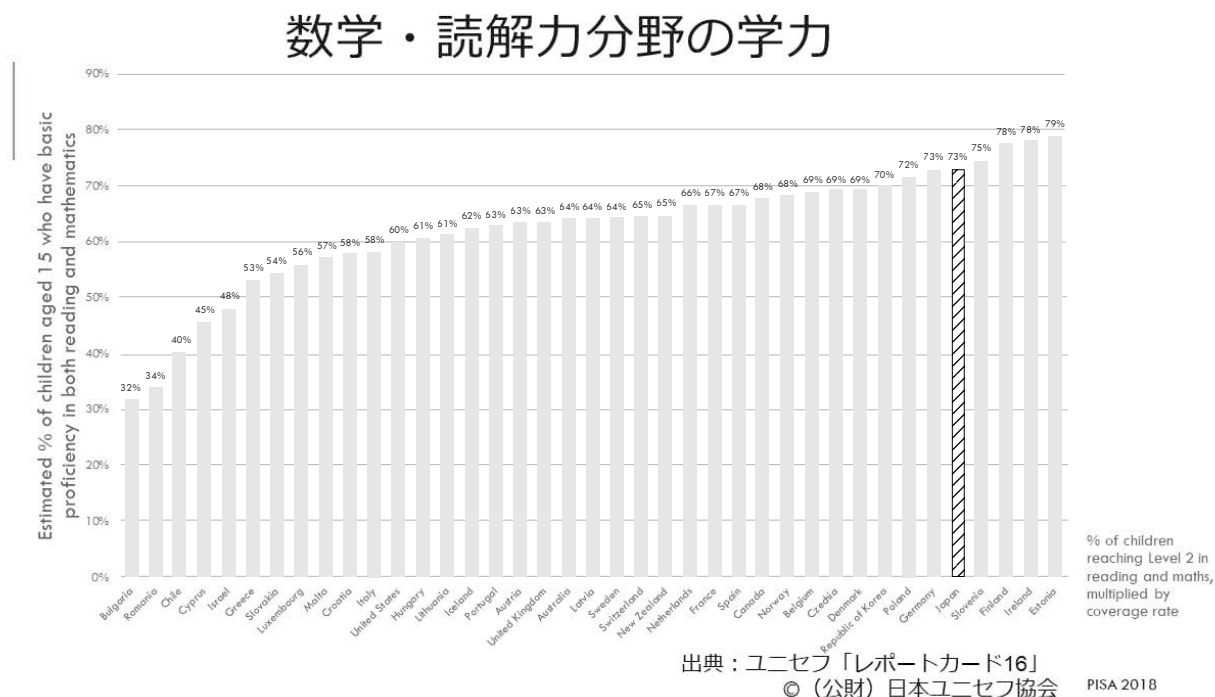
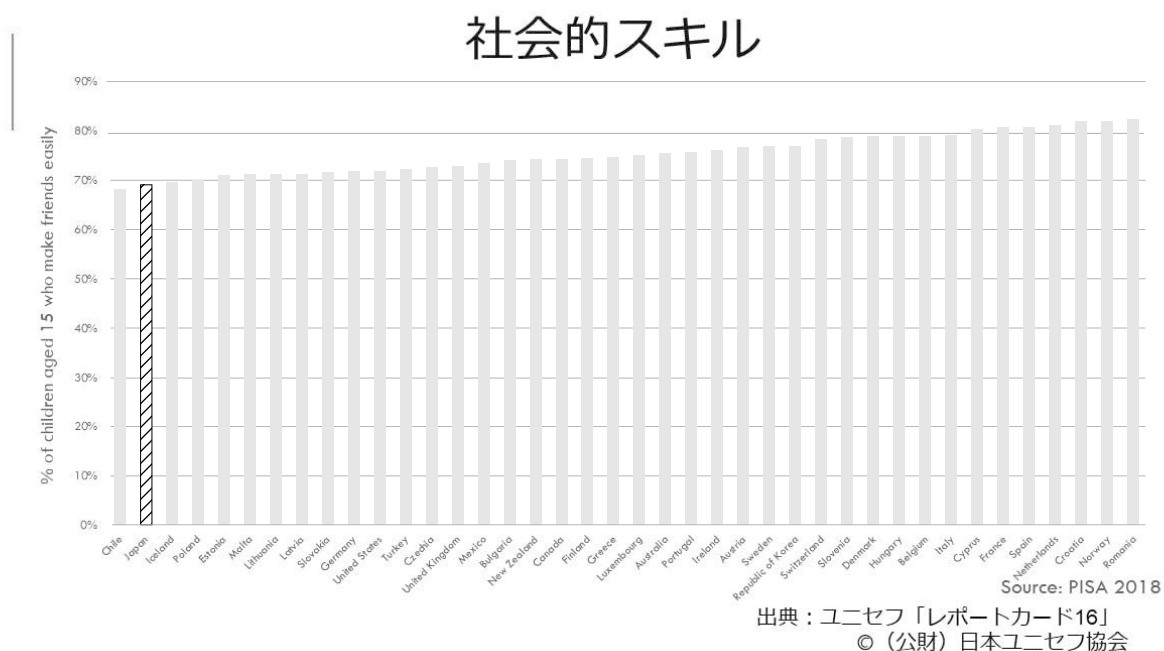


図 2 「すぐに友達ができる」という設問に「その通りだ」または「まったくその通りだ」を選んだ子どもの割合（グラフ左にある英語の和訳）

別紙



※問題文中、先進経済国を 38 ヶ国と表記していますが、図 1 グラフでは 39 ヶ国
図 2 グラフでは 40 ヶ国のデータが表示されています。
なお示されている国数は、解答にあたり支障はありません。

●学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）

【小論文】（試験問題：60 分）

下記の表 1～表 3 は中学生、高校生を対象とした「ヤングケアラーと思われる子ども」の実態を把握するための調査結果の一部である（注：表中の「n」は調査対象者の人数を示す）。

この調査においてヤングケアラーとは、「年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負って、本来、大人が担うような家族の介護（障がい・病気・精神疾患のある保護者や祖父母への介護など）や世話（年下のきょうだいの世話など）をすることで、自らの育ちや教育に影響を及ぼしている 18 歳未満の子ども」と定義されている。

問 1 表 1 はヤングケアラーと思われる子どもの割合を示している。表 1 から読み取れることを複数、解答用紙の「(1)」の後に書きなさい。(100 字未満)

表 1 世話をしている家族の有無

	(n)	調査数	いる	いない	無回答
中学2年生	5,558	5.7	93.6	0.6	
全日制高校2年生	7,407	4.1	94.9	0.9	
定時制高校2年生相当	366	8.5	89.9	1.6	
通信制高校生	445	11.0	88.1	0.9	

※通信制高校生について、本設問は 18 歳以下、19 歳以上の年齢別に聞いており、年齢の設問に無回答であった 1 名は回答の対象外となっている。

※通信制高校生は「18 歳以下」と「19 歳以上」の合計。19 歳以上は「いた（現在はお世話をしていない）」、「現在まで継続してお世話をしている」が「いる」に含まれる。

問 2 表 2 はヤングケアラーと思われる子どもとそうでない子どもの、ふだんの学校生活等で当てはまることについての回答を示している。表 2 から読み取れることを述べた上で、周囲がヤングケアラーと思われる子どもに気づき手を差し伸べるためにはどのようなことができるか、あなたの考えを解答用紙の「(2)」の後に書きなさい。(500 字未満)

表 2 ふだんの学校生活等で当てはまること（複数回答）

	調査数 (n)	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	多活動や習い事を休むことが多い	提出しなげに遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	1 人で過ごすことが多い	学校では友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
世話をしている家族	660	33.6	22.6	20.2	9.1	23.0	2.4	3.3	12.0	11.1	40.6	1.5
いない	12,568	28.0	15.1	12.6	4.9	14.5	1.2	1.0	6.8	7.0	51.7	1.5

問3 表3は、ヤングケアラーの認知度を示している。表3から読み取れることを簡潔に述べた上で、ヤングケアラーの認知度を高め、正しい理解を広めるために必要なことを考えて、解答用紙の「(3)」の後に書きなさい。(200字未満)

表3 ヤングケアラーの認知度

(%)

	調査数 (n)	聞いたことがあり、 内容も知っている	聞いたことはあるが、 よく知らない	聞いたことはない	無回答
中学2年生	5,558	6.3	8.8	84.2	0.6
全日制高校2年生	7,407	5.7	6.9	86.8	0.6
定時制高校2年生相当	366	6.0	7.7	85.5	0.8
通信制高校生	446	8.1	7.8	83.9	0.2

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

出典：三菱UFJリサーチ&コンサルティング 令和2年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業
ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書（2021年3月）
https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210412_7.pdf

●一般選抜 D日程入試

【総合型問題（学部学科別）】（試験時間：60分）

次の文章を読んで、設問に答えてください。

「自分の城」が破滅を招く

私が『心』¹をドイツに持っていった最大の理由は、この小説が「人と人のつながり」というものについて、多くのことを語ってくれているからでした。「私」²と先生とのつながり、先生とKとのつながり、先生とお嬢さんのつながり、「私」と田舎の親たちのつながり。当時の私は自我³を持てあましながら、同時に他者とのつながり方についてもつかみかねていたのです。

これは、自我にとらわれている人誰にとっても、行く手に立ちふさがる壁だと思います。自我が肥大化していくほど、自分と他者との折りあいがつかなくなるのです。

自我というのは（①じそん）心でもあり、エゴでもありますから、自分を主張したい、守りたい、あるいは否定されたくないという気持ちが強く起こります。しかし、他者のほうにも同じように自我があって、やはり、主張したい、守りたい、あるいは否定されたくないのです。そう考えると、手も足も出なくなってしまいます。

人によっては、「他者とのかわり方は表面的にしのぎ、本当の自分は隠しておく」といった方法が取れるかもしれませんが。しかし、それができずに②完全籠城^{ろうじょう}する人もいるでしょう。つつ走っていく自我を止められず、さりとて誰かに救いを求めることもできず、悲鳴を上げたくっている人もいるのではないのでしょうか。

こうした自我の問題は、百年前はいわゆる「知識人」特有の病とされたのですが、いまは誰にでも起こりうる万人の病と言っていると思います。当時は「神経衰弱」と呼ばれ、漱石の小説中に「キーワード」のように出てきます。

漱石の「断簡（メモ）」の中にも、こんな言葉が見えています。

「Self-consciousnessの結果は神経衰弱を生ず。神経衰弱は二十世紀の共有病なり」

漱石自身も何度も神経衰弱になり、さらに胃潰瘍^{いはいよう}を引き起こし、一時危篤に陥っています。ウェーバー⁴も重篤な状態になって、精神病院に入院したことがあると言われている。

では、肥大していく自我を止めたいとき、どうしたらいいのでしょうか。そのことを考えるとき、私がいつも思い出すのは、精神病理学者で哲学者のカール・ヤスパースが言ったことです。ヤスパースはウェーバーに私淑していました。その彼がこう言ったのです。

「自分の城」を築こうとする者は必ず破滅する――と。

これは私もそうだったのでよくわかるのですが、誰もが自分の城を頑強にして、塀も高くしていけば、自分というものが立てられると思うのではないのでしょうか。守れると思ってしまうのではないのでしょうか。あるいは強くなれるような気がするのではないのでしょうか。しかし、それは（③ごかい）で、自分の城だけを作ろうとしても、自分は立てられないのです。

1 夏目漱石の小説。「こゝろ」、「こころ」とも表記される。この文章の筆者がドイツ留学の際、持って行った一冊。

2 「心」は、上、中、下の3部構成で、上と中は、「私」を語り手として書かれており、下は「先生」から「私」への手紙の形で書かれている。

3 ここで言う「自我」とは、「私とは何か」を自分自身に問う意識で、「自己意識」ともいえるもの。

4 マックス・ウェーバー (Max Weber)。ドイツの政治学者、経済学者、社会学者。

【問1】 文中の（ ①じそん ）と（ ③ごかい ）は、元々の文章では漢字で書かれています。それぞれを解答用紙の所定欄に漢字で記入してください。なお、それぞれの意味は以下の通りです。

①じそん：自分自身を高く評価したり，大切にする気持ち

③ごかい：意味を取り違えたり，捉え方を間違えること

【問2】 下線部②の「完全籠城」とは、どういうことを指しているか説明してください。加えて、あなたや周囲の人が“完全籠城”したエピソードを例示してください。あなたや周囲の人では思いつかないなどの場合、小説やアニメ・ゲーム、ドラマなどの登場人物で例示しても構いません。（298 字以内）

【問3】 「自我」を肥大させることなく、自分というものをつくるにはどのようなことが必要と考えられるか、この文章を踏まえた上で述べてください。（478 字以内）

●出題意図・解答例

総合型選抜 9月入試【出題意図】

応用心理学部臨床心理学科のアドミッションポリシー「1. 自他の心の理解を深め、さらに良好な人間を関係作り出すことに興味・関心のある人」に関連した問題であり、また、同じく「入学までに身につけておいてほしいこと」にある、「2. 人間や社会の様々な問題について関心を持ち、資料やデータを基に筋道を立てて考え、説明することができる」力を問う出題でもある。特にこの設問では、「社会に対する認識の調査結果を通じて、今日の若者の心理的な特徴を理解し考察する」ことを目指している。

評価は以下の基準に基づく。

- ・図表から情報を正しく読み取り、その特徴を言葉で適切に表現できているか
- ・与えられた情報から、現代の社会状況についての想像へと思考を展開できているか
- ・与えられた情報に基づき自分自身の考えを論理的に表現できているか

《解答例》

- (1) 「良質な生活環境が整っている」、「心と身体の健康が保たれる」については、満足している回答割合が満足していない回答割合を上回っており、満足している者が多いことが窺えるが、「満足している点は特にない」という回答割合が3番目に高いことから、全体的に満足している点が少ないことが窺える。また、上記3項目以外では、満足していない回答割合が満足している回答割合を上回っているかほぼ同程度の項目がほとんどであることから、全体として満足していない回答割合が高い傾向が読み取れる。さらに、「経済的なゆとりと見通しが持てる」、「若者が社会での自立を目指しやすい」については、満足していない回答割合が最も高い2項目、かつ、満足している回答割合が最も低い2項目（「その他」を除く）であることから、満足していない者が特に多いことが推測できる。
- (2) 若者が社会での自立を目指しにくい要因として、図にもある通り「経済的なゆとりと見通しが持てる」と感じられる者が少ないという社会経済的背景が考えられる。不安定な雇用情勢や経済状況に加え、AIの台頭による労働力の転換予想等、将来に対する不安につながるような情報が多く提示されている現状がある。さらに、コロナ渦の影響を受け、より未来への見通しが立てにくくなっていること等が、社会の側の要因として考えられる。他方、若者側の要因としては、チャンスを見つけようとする意識自体が希薄である可能性があり、自分自身を成長させ、自らの力で自立を目指す積極性に欠ける可能性が考えられる。また、若者の育つ家庭が、過保護・過干渉や虐待の問題を抱えていたり、若者自身がヤングケアラーとして家庭に縛られている状態である場合も考えられる。等。

※(2)は様々な考察が可能であるため、ある程度現実的な考察が論理的に正しく展開されていればよいが、図の他項目の結果とも組み合わせて考察されていると更により。

総合型選抜 10月入試【出題意図】

応用心理学部臨床心理学科のアドミッションポリシー「1. 自他の心の理解を深め、さらに良好な人間関係を作り出すことに興味・関心のある人」に関連した出題である。とくに「言葉はいったい何のために作られたのかについて考える」ことを目指している。今回の設問では出題された文章を正しく理解する能力、日常的な課題に対して興味・関心を持ち自分なりに思考を深めていく能力、自らの考えを論理的に表現する能力などをみている。

問1、問2の出題意図は、文章、文脈を理解する力、またそれを表現する力を問う問題である。これらの問題は、入学後に大学で授業を受けて理解する基礎学力の査定になる。

問3の出題意図は、「言葉は何のために作られたのか」について自分なりの意見を考え、それを適切に表現する力を問う問題である。とくに心理学を学ぶにあたっては、心の理解を深めながら人間関係の構築について興味・関心を有することが必須であり、言葉や言葉を通じたコミュニケーションについて日頃から自分なりに筋道を立てて考え、説明できることが必要である。

この問題では朝日新聞の科学季評欄に掲載された、言葉を用いたコミュニケーションに関する文章の一部を取り上げて、文章中の表現を正しく理解し、論理的に自分の考えをまとめる力を評価することを意図している。

評価は次の基準に基づく。

問1：下線部の「その感覚」というのが、前の段落にある「触覚や味覚、嗅覚といった（他者と共有しにくい）感覚」を指すことが、理解できているかどうかを評価する。視覚や聴覚を指しているのではない。

問2：文章の中で著者は言葉のどんな役割を述べているかについての設問であり、「言葉は五感を音によって表現する手段」であることが理解されているかどうか、最も重要である。さらにそれは、「まずは視覚に対応するようになっている。形や色の表現が多彩なものも視覚に基づくからだ。」という点が付記されていれば適切である。

問3：「言葉は何のために作られたのか」について、受験生自身の考えが述べられているかが評価の基準となる。

文章の中では、「五感を音によって表現する手段」としての役割が述べられているが、言葉は何のためにあるのか、あるいは何のために作られたのかについては、その他にもいろいろな知見や考え方がある。「言葉の役割」について幅広く興味・関心を持ち、それらが論理的に適切に表現されているかが評価の基準となる。

筆者が文章で述べている「五感を音によって表現する」ということ以外にも、自分の感情（喜怒哀楽）、欲求、判断、意思を表現する手段となること、さらに文字によって音声が届かない場所へもそれらを他者に伝えられること、あるいは自らの思考の助けとなることなど、広範な言語の機能が知られているので、それらの一部または多くに触れられており、わかりやすく説明されていることが評価における重要な点である。

総合型選抜 12月入試【出題意図】

応用心理学部臨床心理学科のアドミッションポリシーの「求める学生像」にある、「③将来、心のケア、支援にかかわる仕事（スクールカウンセラー、医療・福祉領域における心理職など）や職場などの対人関係にかかわる仕事をを目指す人」に関連した出題です。また、「入学までに身につけておいてほしいこと」にある、「2. 人間や社会の様々な問題について関心を持ち、資料やデータを基に筋道を立てて考え、説明することができる」力を問う出題でもある。

設問（1）は、複数のデータやグラフから情報を統合して理解し、読み取った情報を言語化・表現する能力を問う問題である。

設問（2）は、実際のデータやグラフから読み取った情報に基づき、自ら問題発見し、解決していく能力を問う問題である。

小論文の評価は以下のような基準に基づきます。

- 3つの図表から、他の先進経済国の子どもと比べ、日本の子どもは身体的健康度が高いが、精神的幸福度が低いこと、また、スキルのうち、数学・読解力分野の習熟度が高い一方、社会的スキルが低いことを読み取り、それを適切に表現できているか。
- 日本の子どもの精神的幸福度や社会的スキルの低さを問題視し、その原因と解決策について、論理的に記述できているか。
- 提案された解決策は、創造的であるか。
- 日本語の文章や小論文として適切なものになっているか（誤字脱字等の有無も含む）。

学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）【出題意図・解答例】

応用心理学部臨床心理学科のアドミッションポリシーの「求める学生像」にある「2. 心の支援やケアにかかわる諸資格取得に意欲のある人」「3. 将来、心のケア、支援にかかわる仕事（スクールカウンセラー、医療・福祉領域における心理職など）や職場などの対人関係にかかわる仕事をを目指す人」に関する問題である。加えて「入学までに身につけておいてほしいこと」にある「2. 人間や社会の様々な問題について関心を持ち、資料やデータを基に筋道を立てて考え、説明することができる」に関する問題である。

評価は以下の基準に基づく。

- ・表から事実を正しく読み取り、適切に言語化できたか。
- ・社会問題の解決に向け自分や自分以外の人（または機関）ができることを考え、自分なりのアイデアを言語化できたか。
- ・日本語の文章や小論文として適切なものになっているか（誤字脱字等の有無も含む）。

回答の観点例は以下の通り。

- 問1 「ヤングケアラーと思われる子どもが中学生の5.7%、全日制高校生の4.1%存在している」「全日制高校生に比べ定時制および通信制高校生は、家族のケアをしている子どもの割合が高い」など。
- 問2 「ヤングケアラーと思われる子どもは、そうでない子どもに比べ、持ち物の忘れ物が多い、提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い、宿題や課題ができていないことが多い、といった傾向がある」「身近な子どもの様子に気を配り、さりげなく声をかける」「話を聞き、必要に応じ教師に相談する」など。
- 問3 「中学生、高校生とも『ヤングケアラー』という言葉聞いたことがないとの回答が8割を超えており、認知度は低いと考えられる」「義務教育でヤングケアラーについて取り上げ、誰もが身近な問題として考えることができる機会を提供する」など。

一般選抜 D日程入試【出題意図】

応用心理学部臨床心理学科のアドミッションポリシー「1. 自他の心の理解を深め、さらに良好な人間関係を作り出すことに興味・関心のある人」に関連した出題です。

出題文は、自我を肥大させることなく、自分をつくる、自分を立てること、つまりは健全な自我を確立することについて述べられています。自我とは「私とは何か」を自分自身に問う意識であり、自尊心でもあります。そのため人に自分を主張したい、守りたい、あるいは否定されたくないという気持ちが強く起ります。しかしその一方で他者にも自我はあり、お互いの自我の折り合いがつかず、行き詰ってしまうことがあります。

この行き詰まりを避けるため、他者との接触を避け、あるいは表面的なものにとどめ、「自分の城」を強固にする方略をとることで、自分は守られ、自分が立てられると考えてしまうことがあります。しかしそのことは誤りであると述べています。

本設問は、自分というものをつくるには、つまりは自我を確立するには、「自分の城」を強固にするのではなく、他者との間に関係を持たねばならないこと、さらにその関係のあり方について考えてもらう問題です。

参考までに今回引用した文章では、引用した部分に続き、自我とは他者との関係の中でしか成立しえないこと、他者と相互に承認しあわない一方的な自我はありえないこと、つまり自我を成立させるには、自分と他者との間の相互承認の関係が必要であることが述べられています。

評価は以下のような基準に基づきます。

- 出題文の趣旨を理解し、解答しているか。
 - ・「完全籠城」という比喩表現が指していることの意味、すなわち、他者との関係を持たずにひきこもって自我を確立しようとすることに言及しており、それに合致した例示ができていること（設問2）
- 他者との関わりを持たない方法や、表面的な関わりに終始することでは自分を作ることはできないことを踏まえ、自分をつくるための方法について、他者の存在や、他者との関わりについて言及しながら述べていること（設問3）
- 自分の考えを論理的に表現できているか。
- 日本語の文章や小論文として適切な表現になっているか（誤字脱字の有無も含む）。

出典：姜尚中（著）「悩む力」集英社新書 pp35-38.